



【現代語訳】（詩吟・川中島）

不識庵（上杉謙信の法号）が機山（武田信玄の道名）を撃つ場面を記す

頼山陽（江戸後期の儒学者）

馬に鞭打つ音も静かに、静かに、上杉軍は夜、河を渡った。

明け方に至り、霧が晴れると、川中島に両大軍は大将旗を押し出して布陣していた。

敵対して十年、上杉軍はひたすら剣を磨いてきたのだが、戦端は開かれ、決戦である。

上杉謙信はただ一騎、敵陣を破り、流星が光るような僅かの隙を突いて敵将の武田信玄に挑んだのだが、馬上から振り下ろした一大刀も、二の大刀も信玄の持つ鉄扇に受けられ、更に武田軍の応戦に阻まれて、敵将を討ち取ることを逸してしまった。さぞ悔しかったことであろう。

令和四年二月十八日

大中臣正比呂 拙訳

【補注】

上杉影虎は謙信の初名である。上杉氏の名跡を譲られ政虎と改名したが、後に輝虎と改名している。受戒して、不識庵謙信と法号を授かっている。奇しくも、今年（令和四年）は虎年である。作者の頼山陽は、「越後の虎」と畏れられた名将の心情を詠んでいる。一方の武田晴信はその道名（自身の悟りの道程の名）を機山信玄と言う。因みに受戒後の法名は徳栄軒信玄である。